

最新版(英語版)はこちら**最終改訂年月** : 16 August 2003

背景 : リンパ浮腫は、リンパ管排液メカニズムの閉塞により体内に過剰な体液が蓄積する病態である。ベンゾピロン類による治療が皮下組織における体液形成を抑制し、患部の疼痛と不快感を軽減すると考えられている。

目的 : リンパ浮腫の管理におけるベンゾピロン類の有効性をプラセボと比較する。

検索戦略 : Cochrane Breast Cancer Group register(2003年9月)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(Cochrane Library、2003年4版)、MEDLINE、EMBASE、CINAHL、UnCover、PASCAL、SIGLE、British Lymphology Societyの作成による参考文献一覧表、National Research Register(NRR) およびInternational Society of Lymphology議事録を検索した。

選択基準 : ベンゾピロン類とプラセボを比較したランダム化比較試験。

データ収集分析 : 盲検化した2名のレビューアが適格な試験を選択し、その質を検討し、各自が別々にデータを抽出した。試験の質が低かったため、メタアナリシスは行わなかった。

主な結果 : 15件の試験を採用した。3件のオキセルチン試験は、同じ投与量を6カ月余にわたってプラセボと比較しており、計127名の患者が組入れられていた(81名のデータが利用可能であった)。これらの試験からのデータは不十分で、ベースラインでの過剰な四肢の容積が減少または増加した割合を算出できなかった。Cyclo 3 Fort(一般名)を検討した試験が1件見つかった(参加者57名)が、所見を適切に解析できるほど十分なデータは提示されていなかった。Daflon(一般名)の試験も1件見つかった(参加者104名)が、この試験の情報も不十分で、この薬剤の有効性について結論に達することができなかった。トロキセルチンを併用したクマリンの試験が3件見つかり、互いに異なる2つの投与量を検討しており、プラセボとは比較されておらず、参加者数とベースラインデータが提示されていなかった。クマリンの試験が8件見つかった。2件は同一の試験で、他の1件も同一の試験の可能性があったが確認できなかった。さらに2論文は同一の試験に言及しているようであったが、これも確認できなかった。5件の試験は、この介入法に抗線虫薬を併用した治療法を検討していた。参加者のデータが抽出できず、アウトカム評価項目の報告は大半が不明瞭であった。Loprinziの1999年の試験は詳細が報告されているが、その結論は、他の所見と対立するものであった。

レビューア見解 : リンパ浮腫の管理におけるベンゾピロン類の有効性については、既存の試験から結論を導くことは不可能である。

Citation : Badger C, Preston N, Seers K, Mortimer P. Benzo-pyrones for reducing and controlling lymphoedema of the limbs. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2003, Issue 4. Art. No.: CD003140. DOI: 10.1002/14651858.CD003140.pub2.

Clib issue No. : 2005 issue 4

CRG名 : Breast Cancer

* **ご注意** : この日本語訳は、試験的翻訳(Draft翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。